

(翻刻)

年頭之為祝儀

太刀一腰・馬一疋并

鶴到来、祝着之

至候、大明国御懇

望申之由、被仰越候、

珍重不過之候、春者

可被成 御渡海候之間、

万事其節可申承候、

恐々謹言、

(文禄二年) (徳川)  
正月七日 家康(花押)

(高虎)  
藤堂佐渡守殿

(読み下し)

年頭の祝儀として太刀一腰・馬一疋ならびに鶴到来、祝着の至りに候、大明国御懇望申すの由、仰せ越され候、珍重これに過ぎず候、春は御渡海ならるべく候の間、万事その節申し承るべく候、恐々謹言、

(口語訳)

年頭のお祝いに太刀一腰・馬一疋ならびに鶴が届き、喜ばしく思います。連絡くださった、大明国からの和平申し出については、この上なくめでたいことです。春には秀吉様が朝鮮に御渡海なされますので、何事もその時お話を承ります。